

## 平成31年度 行政評価事業別シート

	<b>実計対象</b>	<input type="checkbox"/>	<b>評価対象</b>	<input checked="" type="checkbox"/>	<b>新規</b>	<input type="checkbox"/>	<b>完了事業</b>	<input type="checkbox"/>	<b>ゼロ予算事業</b>	<input type="checkbox"/>	<b>担当者</b>	荒井正憲
	<b>全体計画</b>						<b>経費区分</b>		-		<b>内線</b>	3332
<b>事務事業名</b>	4386 保健事業											
<b>所 属</b>	100600 健康福祉部・健康づくり課											
<b>施 策</b>	01010200 地域医療を支える体制づくり											
<b>予算科目</b>	<b>会計</b>	11 国民健康保険特別会計										
	<b>科目</b>	040101 保健事業費・保健事業費・保健衛生事業費										
	<b>事業</b>	010000 保健事業										
<b>事業目的</b>						<b>事業概要・効果</b>						
国のジェネリック医薬品の利用率を平成32年度までに80%まで高める						国保被保険者の健康の保持増進のための事業 ジェネリック医薬品の利用により療養費の抑制や窓口負担の軽減を図る						

**PLAN-DO**

**年度実績及び予定**

<b>平成27年度 実績</b>	<b>平成28年度 実績</b>
ジェネリック医薬品の利用率67%	ジェネリック医薬品の利用率72.8% (年度平均) 広報や被保険者あてチラシによりジェネリック医薬品の利用を働きかける
<b>平成29年度 実績</b>	<b>平成30年度 実績</b>
ジェネリック医薬品の利用率74.6% (年度平均)	ジェネリック医薬品の利用率79.2% (年度平均)
<b>平成31年度 予定</b>	<b>令和 2年度 予定</b>
ジェネリック医薬品の利用率80%	ジェネリック医薬品の利用率80%

指標名 国保ジェネリック医薬品利用率を高める取組						
算式						単位 %
年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
目標値	目標	72	74	76	78	80
	実績	72.8	74.6	79.2		
指標選定の理由	国民健康保険の医療費を抑制する 本人窓口負担の軽減を図る					
最終年度 目標の根拠	国の令和2年度の目標値とする					
指標名						
算式						単位
年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度 目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度 目標の根拠						

事業費

(単位：千円)

		平成30年度 決 算	平成31年度 予 算
事業費		6,372	6,806
特定 財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	4,302	4,131
	地方債	0	0
	その他	0	2,069
一般財源		2,070	606
人員数 (人)	正規職員	0.5	0.5
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
人員 コスト	正規職員	3,575.0	3,575.0
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
	計	3,575.0	3,575.0
市民一人当たりの経費		0.2	0.2
総額		9,947.0	10,381.0

(単位：千円)

平成30年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	50	講師I謝礼50
11節 需用費	333	消耗品 59 燃料 104 食糧費 3 印刷 156 修繕料11
13節 委託費	605	ジェネリック医薬品利用差額通知委託46 医療費通知 559
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	3,532	保健補導員会 3180 広報 200 経験者研修費150 会議等2
その他	1,852	郵便料1,769 旅費5 手数料47 保険料25 公課費6

(単位：千円)

平成31年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	513	消耗品 138 燃料 120 印刷製本 172 修繕 70 食糧 13
13節 委託費	672	ジェネリック医薬品利用差額通知委託 72 医療費通知作成 600
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	3,469	保健補導員会研修負担金 3180 保健補導員会広報負担金 200 研修 75 その他 14
その他	2,152	郵便料 1980 旅費 47 手数料 92 保険料 26 公課費 7

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか</li> <li>行政内部の管理運営上必要な事業であるか</li> <li>市が主体となり実施すべき事業か</li> <li>法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか</li> <li>目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか</li> </ul>	普通
評価コメント	医療費の適正化に向けて、引き続き取り組むことが重要	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の成果は上がっているか</li> <li>目標に対する達成度は十分か</li> <li>市民生活上の課題解決に貢献しているか</li> <li>行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか</li> <li>事業の目的が達成できるような事業内容になっているか</li> </ul>	有効
評価コメント	ジェネリック医薬品に関して周知が図られ、目標に対し、着実に利用率は上がってきている。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか</li> <li>効率性向上に努めているか</li> <li>使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか</li> </ul>	向上
評価コメント	平成30年度の国保制度改革において、保険者努力支援制度が創設され、ジェネリック医薬品の利用率が指標の一つとなっている。利用率を向上させることで、財源確保が図られ、結果的に被保険者の保険税負担の軽減につながる。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

先発薬と後発薬の1レセプトの差額が100円以上の服薬者全員に、ジェネリック（後発）医薬品利用差額通知を送付。該当調剤月4月、10月。通知件数781件。差額通知や窓口での案内により、着実に利用率が向上している。保険者努力支援制度におけるジェネリック医薬品の利用割合に対する配点も高くなっており、今後も一層の取り組みが必要。

## ACTION

## 1次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
-----------	------------

## 総合評価コメント

医療費適正化の取組として需要であり、継続していく

## 2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
-----------	------------

## 2次評価コメント

ジェネリックの活用は、医療費の削減に有効とされており、補導員会への支援についても、家族から地域へという健康意識の醸成に有効である

## 外部評価

次年度以降の方向性	
-----------	--

## 外部評価コメント

--